

単元名及び単元の目標

世界に歩み出した日本（5/6 本時）

◎ 小単元の目標

日清・日露の戦争や条約改正、科学の発展、などについて調べ、我が国の国力が充実し、国際的な地位が向上していったことを分かるようにする。

2 本研究授業の提案について

民主主義への意識の高まりについて多角的に考え、民主主義へのとらえを確かなものにさせるための手だてとして、以下の二つについて提案を行った。

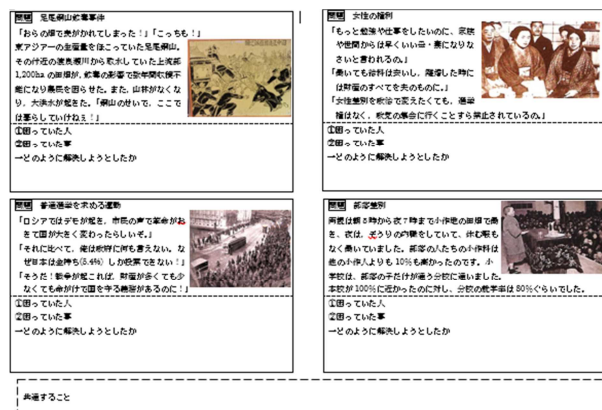
- (1) 社会問題解決の共通項を考えさせることにより、多角的に民主主義へのとらえをできるように工夫した。そのために本授業では2点工夫をした。1点目は、ワークシートの工夫である。4つの社会問題を1枚のワークシート（図1）で比較できるようにした。また、ワークシートはそれぞれの社会問題について「誰が」「どのようなことで困っていたのか」を市民目線で書くことにより、問題を捉えやすくできるよう工夫した。2点目は、予習を取り入れたことである。ワークシートを予習で取り組むことによって、授業の中で共通項について考え、伝え合う時間を十分に確保できるように配慮した。その結果、「定められたことを覆そうとした」「国民が政府に自分で意見を言った」など、複数の事象から民主主義の特徴をより一般化して捉えることができたと考える。
- (2) 民主主義についてより深く考えられるようにするために自分なりに価値観をする場面を設けた。「タイムスリップをして問題を解決するとしたら、どの運動に参加するか」という活動を、授業の終末に取り入れた。母親が働いている児童が「女性が自由に働くことができないのはおかしいと思う」など、今の自分の問題意識と本時で学習した社会問題を結び付けて再考している児童が見られた。しかし、児童同士で意見を伝え合う活動を取り入れることができず、一部の児童の考えしか共有することができなかった。意見交流の場面を設けることで、より多様な考えに触れさせることができたと考える。

3 本研究授業の授業技術課題について

課題把握を工夫し、意欲的に学習に取り組ませるための手だてとして、単元を貫く学習問題を児童と考える場面において授業を工夫した。具体的には、風刺画を用いるなど資料を精選した。それによって自分なりの問題意識をもって歴史の学習を進める姿が見られるようになった。また、一単位時間の学習の成果を掲示し、これまでの学習の積み重ねと本時で学習することのつながりを可視化した。それによって、学習の見通しを持つことができ、これから学習する内容が「どんな意味を持っているのか」意識させることができた。これは本研究授業のように予習に取り組ませる上でも重要であったと考える。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は社会科における学習問題の把握を意識した授業を2回行った。歴史上の出来事に自分なりの問題意識をもって取り組むことができる授業作りを目指してきた。そのために学習問題作りの場面で、どのような資料を基に、何を考えさせるのかを意識してきた。研究授業前後の検討会において、先生方から学習問題作りの場面での工夫について具体的にアドバイスをいただいた。しかし、意欲を持たせることに成功した授業もあれば、そうではない授業もあった。単元を通して何を学ぶのかを教師側が理解していなければ、よい教材があっても、必要な気付きをさせることができない。例えば、長篠の戦いを描いた屏風絵の授業でのことである。「城」という観点で児童に考えさせることをしなかったため、その後の学習において、3人の武将が建築した「城」という視点を教師側から提示することになった。単元の見通しをよりしっかりと持てていれば、屏風絵から城について気付きを促し、児童の意見として単元計画の中に組み込むことができたと考える。今後も、今年度の反省を生かし、単元最初の課題作りと学習計画の時間を大切にしていきたい。



資料1 ワークシート